

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	環境情報学特別演習Ⅱ (Environmental Information Engineering SeminarⅡ)【吉村研究室】		授業コード	M001205
担当教員名	吉村 充功		科目ナンバリングコード	R30402
配当学年	2	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	なし			
受講心得	特別演習は指導を受けるときだけでなく、普段からの取り組みが重要です。しっかりと取り組んで下さい。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	なし			
関連科目	環境情報学特別演習Ⅰ、環境情報学特別研究			

授業の目的	交通計画や都市計画では、交通などの対象自体だけでなく、環境や周囲にどのような影響を及ぼすかといった問題も取り組み、問題の解決を計る必要があります。このような考え方を理解するために、公共経済学、厚生経済学を中心に、ミクロ経済学の理論と適用方法を習得します。また、数理計画法などの最適化の手法について、現象のモデル化から解法、計算法を習得し、交通、都市問題解決のための技法を体得します。これらの内容について、手順、成果などをまとめ、論文作成の過程を体得します。
授業の概要	研究テーマに沿った演習を行います。研究内容により、交通現象を解析、まちづくりを進めるための調査、数値シミュレーション、解析、評価手法などを扱います。特に大分での事例を扱った研究や大分での実践活動をベースに進めます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ゼミ(1) ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。	毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
第2週：ゼミ(2) ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。	毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
第3週：ゼミ(3) ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。	毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
第4週：ゼミ(4) ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。	毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
第5週：ゼミ(5) ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。	毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。

<p>第 6 週 : ゼミ(6)</p> <p>ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。</p>	<p>毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。</p>
<p>第 7 週 : ゼミ(7)</p> <p>ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。</p>	<p>毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。</p>

第8週：ゼミ(8)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第9週：ゼミ(9)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第10週：ゼミ(10)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第11週：ゼミ(11)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第12週：ゼミ(12)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第13週：ゼミ(13)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第14週：ゼミ(14)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第15週：ゼミ(15)		毎回の演習内容について復習を行い、レポートにまとめて下さい(4h)。
ゼミ形式で実施し、受講生自身の研究課題の進捗に合わせて授業を展開します。また、必要に応じて地域での実践、調査を行います。		
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	①公共経済学、厚生経済学を中心に、ミクロ経済学の理論と適用方法を習得できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	

【思考・判断・創造】	②数理計画法などの最適化の手法について、現象のモデル化から解法、計算法を習得し、交通、都市問題解決のための技法を体得できる。 ③上記の内容について、手順、成果などをまとめ、論文作成の過程を体得できる。
-------------------	---

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		50点	20点	

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回のゼミレポートを到達目標の観点に照らして評価します。 評価結果はゼミの都度フィードバックします。
発表・その他 (無形成果)	毎回のゼミ発表を到達目標の観点に照らして評価します。 評価結果はゼミの都度フィードバックします。